

1 学校経営の基本理念

(1) 豊かな人間性の育成

東京都並びに練馬区の教育目標、教育指導課の主要施策に基づき、北町西小学校の教育目標を具現化し、子供一人一人が「知・徳・体」の調和のとれた人間性豊かな子供の育成を目指す。

(2) 地域とともに歩む学校

保護者・地域の方々の思いや願いを正しく受け止め、地域のよさを学び、地域とともに歩む学校づくりを行うため、学校、地域、保護者が協力して北町西小学校の子供のために全力で教育活動に取り組む。

(3) 協働し組織的に対応する学校

「すべての教師がすべての子供の担任」として、職員全員が協働し統一された教育活動を丁寧に積み重ねることにより、基本的な生活習慣、学習習慣の定着図り、「生きる力」を確実に育む。

2 目指す学校像（長期目標）

- ・今日が楽しく明日が待たれる学校
- ・子供のよさを見つけ、可能性を伸ばす学校
- ・子供の安全が確保され、安心して過ごせる学校
- ・内にも外にも開かれた学校として、保護者、地域と連携し、地域住民に信頼される学校
- ・職員の持てる力を結集し、組織力を発揮できる学校

3 学校教育目標

人権尊重の精神を基盤とし、自立的精神にみちた健全な人間の育成、日本の文化と伝統を尊重し、国際社会に貢献する日本人の育成、生涯にわたり、自らをみがき心豊かにたくましく生きる人間の育成を目指し、次の子供像を掲げてその育成に努める。 ※◎が重点目標

◎自らをみがき学び合う子

（人の話をよく聞き、自分の考えを発表できる子、基礎基本の学力が定着している子）

○思いやりがあり助け合う子

（みんなと仲良く協力する子、挨拶ができルールを守る子）

○心と体をきたえやりぬく子

（体力のある子、集中力があり最後までやり抜く子）

4 目指す教師（教職員）像

子供にとって最も影響ある教育環境は、教師自身である。

(1) 子供、保護者に正対し、決して逃げない愛情ある教師

- ・全ての児童、保護者の心根に寄り添い、心のひだ一つ一つにまで共感し背景を看取ろうとする教師

(2) 心身共に健康で、率先垂範、プラス思考で努力する教師

- ・教育に情熱を燃やし笑顔が絶えない教師（子供が日本一好きな教師）

(3) 子供に学び、子供と遊び、子供とともに成長する教師

- ・人権感覚が研ぎ澄まされた教師
- ・時間を守る（授業の始まり、終わり 特に中休み前後）約束を守る 素直に謝る教師

(4) 自己のキャリアアップを追究する教師

- ・後輩の資質向上に親身に寄り添い、将来のために言いにくいことでも毅然と指導できる教師

(5) 礼儀正しく、公務員・社会人としての常識を備えた教職員

- ・礼儀正しい挨拶・接遇 ・笑顔でお辞儀、会釈を行う。誠実な電話対応に心がける。（校名、名前、職名を名乗る。笑顔で話す）
- ・職務上及び身分上においても公務員であるという自覚をもつ教職員

(6) 家庭地域と連携し、児童を育てる教師

5 学校経営の基本方針（中期目標と方策）（重点・いじめ・体罰根絶への組織的対応等はゴシック体）

(1) 北町西小学校の教師としての基本姿勢

- ・全ての教育活動を、子供の具体的な活動と変容を評価規準として、PDCAのサイクルを基本に、日々改善していく。
- ・加点的な指導を心がけ、子供に自信と自己肯定感を育てる。
- ・子供とのふれあいに心がけ、子供の側に立った受容的な態度に努め、子供理解を深める。
- ・全ての教育活動を通して人権教育を進める。いじめ・体罰は絶対に許さない、しないという毅然とした態度で、いじめや偏見、差別のない温かい人間関係を醸成する。
- ・北町西小のすべての教師がすべての子供の担任として、学級、学年、専科の枠を越え、全職員が協力

して、「みんなで」子供を育てる。

- ・学校が危機に直面した際、一枚岩となって仲間を守り乗り越えようという気概をもつ。
- ・教師のプロとして、自信と誇りをもって指導に当たる。子供や保護者の声には、きちんと耳を傾け、適切な指導助言を心がける。
- ・地域、地域人材の素晴らしさを教師一人一人が理解し、地域を愛する子供を育てる。保護者・地域の方々からの協力を積極的に仰ぐとともに、進んで地域に出向き地域行事に参加する。

(2) 学力の向上

- ・「学力アクション」をベースに楽しく学ぶ学習を全教室に展開する。
- ・特別活動（話し合い活動を中心）の指導法の研究を通して、読み取る力を育成する。
- ・全児童対象の学習補充教室や学級学習補充教室を有効に活用し、「計算力」「書く力（漢字・百マス作文）」「読む力」を繰り返し指導し確実にする。家庭学習の習慣化を図る。（学年×10分）
- ・少人数担当教員や学力向上支援講師を活用し、算数科の習熟度別・TT指導を徹底し、基礎・基本の確実な定着を図る。
- ・思考力、判断力、表現力を育てる問題解決的な学習と学び合いを通し「メタ認知」を高める。
- ・特別支援教育の手法を取り入れ、表現力の基盤となる「話す」「聞く」の力をつけていく。
- ・全ての児童の発達に照らし合わせた授業を全教科・領域において行う。
- ・各教科等や行事のねらい、安全面の配慮のもとに、週毎の指導計画を書き記録を残し指導改善を行う。授業改善推進プランを絵に描いた餅にしない。

・授業の工夫（指導技術の向上）

【めあてと発問の精選、板書構成、ノート指導、学習形態の工夫、話し合い活動の工夫】

- ・言語活動の充実として、読書旬間の設定、図書館ボランティア「りんごの会」、平和台図書館との連携を通して、読書活動を推進する。
- ・小中一貫教育に向けての活動、取組を実践する。

(3) 豊かな人間性の育成

- ・道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて子供たちの発達段階に応じた道徳教育を行う。
- ・年間指導計画に基づいて、計画的、組織的に人権尊重教育を進める。
- ・清潔で安全な学校環境を維持し、子供たちが落ち着いて生活ができるようにする。子供を支援する「3かけ」（目をかける、声をかける、手間をかける）を励行する。
- ・いじめをしない、させない、正義と思いやりのある体罰のない学級を作る。
- ・きまりの必要性や意味を理解させ、きまりを守れる子供を育てる。叱って気付かせ、ほめて身に付けさせる。
- ・受容（優しさ）と規律（厳しさ）のバランスを取り一時的な感情ではなく、意図的・計画的に演技者として叱る。【叱る3基準（人権・生命・迷惑）ほめる3基準（努力・奉仕・実行）】
- ・学校行事や学級活動、集会を通して、所属感、達成感を味わわせる。
- ・挨拶を学校の校風に、生活規律の斉一化に努め生活指導の重点化を図る。

(4) 個に応じた教育の充実

- ・全児童対象の学習補充教室や学級学習補充教室を実施する。
- ・特支学級と通常学級との連携を密に行い、特別支援教育推進体制をつくる。
- ・学校と家庭、関係諸機関との連携を密にし、学校不適応や虐待等に対して適切に対応する。
- ・児童の困り感を我が事と考え、心を寄り添わせる。
- ・その児童の特性を踏まえ個性を輝かせて学級の宝とする。

(5) 体力の向上

- ・個に照らし合わせた指導、意欲を喚起する体力アクションを行う。
- ・外遊びと集団遊びを奨励する。天気の良い日の外遊びを奨励し、学級遊びや学年遊び、縦割り遊び等、集団遊びを増やし、教師もできるだけ一緒に遊ぶ。
- ・体育科の各領域での目標と内容を十分に理解した指導を実施する。その際、運動量を意識して授業を組み立て、毎時間汗をかくことができるような授業の展開に努める。
- ・安全教育を通して、自ら危険を回避する力を培う。
- ・体力向上旬間の設定や子供が日常的に行う指導を工夫する。
- ・生活リズムを定着と食育指導の充実を通して心と体の健康づくりを進める。【早寝、早起き、朝ご飯】
- ・オリンピック・パラリンピック教育推進の年間指導計画を作成し、実践する。

(6) 内に外に開かれた学校づくりの推進

- ・60周年の成果を追い風として、地域と能動的に関わる。

- ・学校評価を組織的、定期的に行い、改善策を広く公表して具現化し期待に応える教育を推進する。
- ・学校地域連携事業推進校として、地域・保護者との連携し取り組む。
- ・学校日より、学年日より、学級日より、学校HP等、**情報発信の充実**を図る。

(7) 教職員一人一人が参画する学校運営【全員経営】

- ・校務分掌について、従前の方法や計画を更に改善、変更することを常に考える。
- ・よしと思える企画・提案は、進んで管理職に具申する。
- ・管理職への報告、連絡、相談を密にする。
- ・経営方針を常に意識し組織としての斉一性を意識する。(やりましょうといったことがやれる)
- ・管理職や上司に進言ができ、後輩を指導できる雰囲気醸成する。(言いにくいことが言える)
- ・担当分掌を前年度踏襲で終わらせず、「ちょこっと改善表」で一歩前へ改善しようとする。

(8) コスト意識をもった施設、教材等の活用

- ・同じ効果を上げるのに、必要最低限に抑えることはできないかと常に意識する。
- ・予算に明るく、税金を無駄にせず会計事故を起こさない。
- ・ISO（環境指針）達成を意識する。

(9) 服務規律に満ち溢れた公務員としての資質向上

- ・公務員としての身だしなみが整い、斉一的な接遇・電話対応をする。
- ・「机上のフラット・グリーン化」を「サービスのシンボル」とし、「机上整備」を行い、紙ベースの個人情報保護・管理に努め、機能的・効率的な執務の向上をめざす。
- ・区学校職員服務規定に基づき、出勤簿の押印、出張の復命等、サービスを正しく行う。
- ・「ハインリッヒの法則」を理解し、日常の業務の中でサービス事故予防に努める。
- ・アンガーマネジメントを理解し、問題行動を「待っていました」と捉え、体罰、不適切な指導をしない。

6 令和2年度の達成目標と具体的方策（全ての児童を我が子同様に接する学校の実現）

【組織の斉一性の確立】

- ・当たり前のことを当たり前のこととして全職員でやる、全教室でやる
- ・大人が模範となる分離礼挨拶の推進、校長が学校の模範として最大努力
- ・学校経営の具体的な方向を示す「きたにし通信」の理解及び内容の遂行（ホームページ掲載）
- ・C4thを活用した情報連携・情報共有

【学力の向上】（基礎基本と活用、楽しく学ぶ雰囲気の醸成）

- ・学習指導要領の趣旨（学びに向かう力（メタ認知）を理解し適切な評価をベースとしたカリキュラムを個々がマネジメントする
- ・「学力向上アクション」の実施（国問題の活用→教員の問題把握・4月、指導書との連動・算数、夏季休業、自作問題・夏季休業、学力グランプリ・2回、学力診断テスト）
- ・「朝学習・週2」、「放課後補充教室・年間」の習熟、「ベーシックドリルの効果的活用・年間」による基礎・基本の定着化
- ・特別活動の研究実践
- ・学校地域連携事業を中核として保護者、外部機関と連携した授業の実践
- ・全ての児童の発達に照らし合わせた授業（ユニバーサルデザイン）への意識変革

【体力の向上】

- ・低学年の受動握力向上のための固定遊具の取り組み
- ・ゲストティーチャーによる体育の授業、課外スポーツの充実（オリパラ教育と連動）
- ・個々の能力に応じた夏季水泳指導（25℃を目指す児童対象の枠の拡充）
- ・「北西ギネス」による児童の体力向上への意欲喚起

【学習・生活規律の斉一的な指導】

- ・「下敷き」学習規律定着のシンボルとする（定着率100%）
- ・「玄関は、学校の顔」として美化を維持する。靴箱の、傘の持ち帰り（職員も）
- ・斉一的な指導のための「北西スタンダード」の確立

【特別支援教育の推進】 校長とコーディネーター（養護教諭を中心）を組織の核

- ・全ての教職員で児童を支援する意識の醸成
- ・専科教員の学級への支援体制の構築

- ・授業や環境のユニバーサルデザイン化
- ・子ども支援委員会の体制整備と連動した専門スタッフ、関係機関とのネットワークの構築
- ・言語障害学級教員による通常の学級へのコンサルテーション
- ・スター（特別支援教室）の円滑な運営（入級児童10名目標）と通常の学級への還元
- ・都SC、ふれあい相談員等によるコンサルテーションの共有
- ・大学との連携によるティーチングアシスタント（TA）の効果的な活用方法の研究開発
- ・パスポート制度の確立、ラーニングブースの開発、クーリングダウン機能の整備・活用
- ・機能的な執務環境の維持 職員室の机上の（フラット化）ユニバーサルデザイン化

【豊かな人間関係の醸成】

- ・人権感覚に満ち溢れた職員室の言語環境の整備。人権教育プログラムに基づく人権感覚に研ぎ澄まされた斉一的な指導の徹底（敬称、指導を振り返る姿勢、共感的、配慮ある作品、掲示物）
- ・礼儀正しいお辞儀（100%）を基盤とした「挨拶」の定着
- ・北西小で絶対に使ってはならない言葉「うざい、きもい、死ね」の根絶
- ・いじめ防止対策の組織的な対応（予防の視点を盛り込んだ調査、いじめ調査結果の発信）
- ・全学年学級編成替えの実施
- ・「ホームサポートカルテ（児童虐待の早期発見と適切な対応のためのカルテ）」の作成による情報共有

【保護者・地域との連携、保護者・地域への発信】

- ・60周年の成果を土台として、全職員の一体感、地域行事への参画意識の醸成
- ・学校地域連携事業推進校としての取組・実践、学校支援コーディネーターの活用（地域・保護者との連携、GTの活用等）
- ・おやじの会のさらなる支援の拡大
- ・アンケートへの誠実な返信（主要行事2回）
- ・学校ホームページの充実（毎日の掲載、夏季水泳実施の有無）のための組織、システムの構築
- ・学校便り（A3版裏表・特別支援教育コーナー等）学級通信、専科通信（年11回以上）の発行による教育活動の発信及び保護者への啓発
- ・特別支援教育の講演等、保護者への理解啓発

【道徳、特別活動】

- ・「道徳の教科化」に沿った道徳の時間の指導、評価、公開授業の実施
- ・教科書や都、区の資料の意図的・計画的な活用
- ・難病の当事者による6年生への「命の授業」の実施、いじめ防止に関する講演会の実施
- ・自主・自立の姿勢を育てる話し合い活動（年間11回以上）
- ・係活動と当番活動の違いを明確にした自主的な活動の実施、学級歌の推奨

【組織・危機・環境管理、サービス・働き方】

- ・第三者機関である「いじめ防止対策サポートチーム」の定着
- ・個人情報保護ファイルによる書類の保護、管理
- ・「ちょこっと改善表」による全員一改善
- ・学校給食アレルギー対応の組織化、精密化（保護者との綿密な除去計画、ケース訓練、実地的研修）
- ・「練馬区緊急メールシステム」の効果的な活用
- ・一時避難所としての地域の自主防災組織の確立に向けた働きかけ
- ・職員室のゴミ箱の一元化と適正な分別・リサイクル行動、節電の遵守、ゴミの持ち帰り
- ・接遇・電話対応研修による公務員資質の向上
- ・区学校職員サービス規定に基づくサービス遵守の徹底
- ・「ハインリッヒの法則」に基づく学校事故、サービス事故の根絶
- ・体罰ガイドライン、アンマネの理解、特別支援教育の資質向上（問題行動は改善の機会）による体罰、不適切な指導の根絶
- ・机上の「フラット・グリーン化」、定時退勤日、週の設定、勤務時間の自己管理（時間外勤務、週35、年320時間以内）、会議の精選、C4thによる業務（情報連携、徴収金システムの適切な運用）の効率化
- ・校長による「イクボス宣言」と趣旨の共通理解